

道徳教育研究

研究テーマ

ふるさとを愛する児童生徒の育成

— 「地域教材の開発」を核とした指導方法の工夫 —



1 はじめに

平成28年度の設置以来、本研究会では「教育活動全体を通じた道徳教育の充実」「系統性を踏まえた指導の充実」「子ども1人1人の成長を『認め励ます』評価の工夫」等をテーマに研究を進めてきた。これらの研究の推進や、各学校での道徳科の授業改善の成果もあり、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の結果を見ると、本市の児童生徒の規範意識や自己有用感は、全国と比較して高い傾向を示している。

一方で、「地域や社会のために何をすべきかを考えることがある」の質問項目における肯定的回答の割合は低く、全国平均を下回った年も見られた。中学校区での地域連携部会の取組やふるさと学習の推進により、直近5年間の状況を見ると改善傾向にあるものの、肯定的回答割合は半数程度に留まっている。

これらの実態を受け、本研究会では、令和2年度から指導方法の工夫の1つとして「地域教材の開発」をテーマに研究を進めてきた。令和4年度は、引き続き地域教材の開発を進めるとともに、昨年度作成した教材での授業実践を行うことにした。

2 研究の内容

(令和2年度～令和3年度)

- ・教材に取り上げる題材の選定
- ・教材の素案作成

(令和4年度～令和5年度)

- ・教材の作成
- ・関連資料の作成
- ・展開例の作成と授業実践

3 研究の実践

(1) 地域教材の開発

① 題材の選定

発達段階や扱う内容項目、南河内・石橋・国分寺地区のバランスを考慮し、教材としての活用効果が期待される題材について検討した。

選定した題材（令和3～4年度）

【特産物】かんぴょう、ちぢみほうれんそう

【史跡】薄墨桜、小金井一里塚、下野薬師寺、

【施設】大松山運動公園、グリムの館、ドナルド・マクドナルド・ハウス

【人物】岩崎弥太郎

② 教材の作成

作成にあたり留意したこと

- ・道徳科のねらいを達成することを目的とし、かつ、地域について理解を深めたり、関心をもつきっかけとなったりするものとする
- ・児童生徒が物事を多面的・多角的に考えることができるものであること
- ・特定の価値観を押し付けるものとならないこと

検討した題材を基に、発達段階に応じた教材の作成を進めた。道徳科では、児童生徒が一面的・一方的な見方に偏らず、多面的・多角的な視点から物事を捉え、考えることが求められている。作成者の思いを大切にしながらも、特定の価値観の押し付けとならないよう留意した。また、学級の実態に応じて多様な活用ができるよう、主とする内容項目を設定しつつ、教材の中に複数の内容項目が含まれるよう工夫を重ねてきた。

(2) 授業実践（国分寺中学校の実践）

市道徳教育研修会において、昨年度作成した教材「見慣れた一里塚」を活用した授業研究会を実施した。講師には、教材作成に関わっていただいている宇都宮大学和井内教授をお迎えし、御指導をいただいた。

① 授業の実際

[主題名] 郷土の文化を大切にできる心 C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度

[ねらい] 郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、郷土を愛し、伝統と文化を引き継いでいこうとする実践意欲を育てる。

[展 開]

過程・時間	学 習 活 動 ○主な発問 ・予想される生徒の反応	教師の支援・指導上の留意点 ※人権教育上の配慮
導入 (5分)	<p>1 自分の地域の自慢できるところを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○国分寺地区の自慢は何だろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・かんぴょう ・ふくべ細工 ・国分寺跡 ・国分寺尼寺跡 ・小金井一里塚 ・愛宕塚古墳など <p>2 本時のテーマを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">生まれ育った場所について考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れ親しんでいる地域について、知っていることを共有する。 ・食べ物、史跡など様々なものの中から、一里塚に焦点を当てる。 ・今の下野市の町の中にポツンとある一里塚を提示することで、古くから残っているものに気付かせる。
展開 (40分)	<p>3 教材「見慣れた一里塚」を読んで話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○「小金井一里塚」の保存状態が良好だったのはなぜだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の人が守ってきたから。 ・道路を作らないようにしてきたから。 ・地域の人達でみんなに伝え続けてきたから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○一里塚を残し、守り続けてきた人々の思いはどのようなものだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・大切な町のシンボルだから残した方が良い。 ・過去を知るためのものだから、将来に引き継いでいきたい。 ・昔の人と同じように人が休める場所にしたい。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">◎これから、自分は一里塚とどのように関わっていききたいだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで守ってきた人の思いを引き継ぎたい。 ・昔を知る貴重なものだから大切にしたい。 ・昔の地域の人たちの思いを受け継ぎたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3～4人のグループで話し合わせ自分の思いを表現しやすくする。 ・「小金井一里塚」と消滅した一里塚を比較させることで、当時の人達やこれまで生活してきた地域の方の思いを考えさせる。 →「誇らしく思った」気持ちへつなげていく。 ・地域の人々が役目を果たした一里塚をなぜ残そうとしたのか考えさせる。 ・今後も一里塚を残すべきかどうか考え、その理由も考えさせる。 ※直接的に関わっていなくても、一里塚を大切にしてきた人々のおかげで今の自分たちの生活があることを再認識させる。
終末 (5分)	<p>4 本時の学習の振り返りをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">○今日の学習で考えたことや学んだこと、これからの自分について考えたことを書こう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・板書やメモ書きから自分のキーワードを見つけて、書くように促す。

②授業研究会での協議内容

授業研究会では、以下の5点が話題に出された。

○発問の工夫・問い返しについて

- ・先人たちの思いについて考えさせようとする他人事になりがち。今現在の自分は思うかと問うことで、自分事として考えられた。
- ・「今の時代、一里塚の役割ってないんじゃないの？一里塚は必要？」先生のこの言葉で子どもたちの動きが止まった。ここで子どもたちに考えさせても効果が見られたかもしれない。
- ・前もって用意した発問ではなく、子どもたちの反応を見て発問を変えてもよいか。(和井内先生より)自分は「あり」と考える。事前に発問は練られているわけだが、子どもたちが考えたい発問になっているかどうかが大変。子どもたちは何を考えたいのか様子を見つつ、リアルタイムで発問や問い返しを考えていけるとよい。

○話し合いの形態の工夫について

- ・相手に伝えることで考えが整理され、自分の考えを改めて考え直す姿が見られた。
- ・グループ→全体で共有の流れにより、たくさんの考えに触れることができた。
- ・話し合いを通して、何気なく行っていたごみ拾い、落ち葉掃きなどが、地域を大切にすることにつながっていたのではないかと考えるようになった生徒が見られた。

○自分との関わりで考えるための手立てについて

- ・生徒から「一里塚の価値を考えたい」という言葉が出てきたのは自分との関わりで考えられたのではないかと。なぜこの考えに至ったのかそこで問い返すと、他の生徒も自分事として捉えられるきっかけになったかもしれない。
- ・「道路の拡張のためには、一里塚は必要ない」という考えも出てくるかもしれない。そのような考えが出て、文化を守る、継承するという思いは生徒から引き出せるのではないかと。
- ・「もうそれは物体ではなくてそこにある人の思いなんだよ。」「なくなったとしても語り継ぐ。」とグループ内で発言している生徒も見られた。このような発言こそ、自分との関わりで考えているのではないだろうか。
- ・「どう関わっていききたいか」という問いは枠が大きく、初めのうちは生徒にも戸惑いが見られた。グループを回りながら先生が助言していたので、子どもたちも具体的に考えられることができた。

○教材の工夫について

- ・ICTの活用。スライドが効果的であった。他の一里塚の様子を画像で比較し、小金井一里塚の状態のよさを確認できたことが、その後の発問につながっていた。
- ・他の一里塚との比較を示したことで、なぜここまで大切にされたのか考えた生徒もいた。
- ・テレビに映す内容と板書のバランスがよかった。視覚的に残したいものは板書されていた。
- ・教師が判読する際、説明で使用していたスライドを流してもよい。視覚的な助けになる。

○書く活動の工夫について

- ・中心発問では考えを書けない子も数名見られた。あまり書いていなくても、話し合いでは考えをしっかりと伝えている子もいる。どの程度書けるとよいとするか、判断が難しい。(和井内先生より)文章の形に整えるのではなく、メモ程度に書いていることが話し合いの充実の繋がっていたのではないかと。しっかりと書いていると、ただ読むだけ、さらには、書いたものを回し読みするだけで終わってしまう。今回の形は理想的である。

③指導講評（宇都宮大学教職大学院 和井内良樹教授）

○授業について

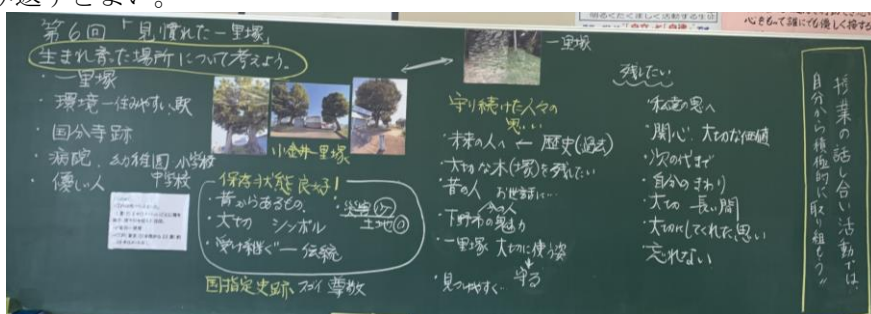
- ・思春期の時期の生徒が和気藹々と話し合っている。とてもよい雰囲気であるため、考えを全体で共有しやすい。相互指名もよくできていた。
- ・文化財を扱った教材であるため、歴史的背景に触れることが必要になる。歴史的背景が分かるとうみ分かる。今日は一里塚の説明に時間を取ったが、流れとして必要だろう。社会科や総合的な学習の時間などに関連させ、事前に一里塚について学習しておくことも考えられる。教科横断的な捉えにもなる。
- ・道徳科では意図的指名が大切とされる。限られた時間の中で全員が話せるという点では、今日の相互指名は意図的指名と言える。続けることで、指名するタイミングなど子どもたちが回した方がうまくいく場合もある。ただし、これは中学生の場合。発達段階から考えると、小学校、特に低学年では難しいだろう。
- ・ワークシートの使い方について、中心発問などではメモ程度に、終末では自分の考えをまとめるためにしっかり書くという使い方はよいのではないかな。

○教材について

- ・ストーリーの構成等、とてもよく仕上がっている。「私」を通して語られる一里塚への思いに、読み手側の思いを重ねたり比較したりしながら考えられる。今回の授業では、残した人々の思いを考えることに重きを置いていたが、主人公の思いが中心である本教材の特性を考えると、「私」への自我関与を中心とした展開も考えられる。残した人々の思いを考えさせる展開は難しいと思ったが、授業者が複数の資料を用意し提示したことで、残した人々への思いを考えさせることができていた。たくさんの情報を提示することは、決してマイナスではない。

○地域教材作成上の留意点について

- ・地域教材を作成する際には、その地域の特色あるものを生かすことが多い。農産物や子どもたちに身近な給食のメニューなども題材になる。
- ・地域の人なら誰もが知っているもの、由緒あるものだが意外と知られていないもの、様々な視点からの題材選びが参考になる。
- ・作成の際は、作成者の思い、感性を大切にしていけるとよい。特定の道徳的価値を意識しながら作成すると、はじめから最後まで教訓めいたものになってしまう場合もある。
- ・作成した後は、この教材を読んだとき、子どもたちは何が気になり、何を考えたいのかという視点で作成した教材を読み返すとよい。



4 成果と課題

(1) 成果

- ・題材の選定や教材の作成をしていく中で、下野市への理解を深めたり、児童生徒の目線に立った道徳科の授業づくりを心掛けたりするようになった。
- ・地域教材の活用は、道徳科のねらいを達成させるとともに地域に対する関心を高めたり、理解を深めたりすることに有効であることが授業の実践を通して確認できた。

(2) 課題

- ・実際に授業での実践を行い、教材を通して児童生徒が何を考えたいのかを見取りながら、必要に応じて教材の修正を行っていく必要がある。